

に反転を示す肉盛りをしている。
法起寺金堂例は百済様式を踏襲し
ており、軽寺例は半球形の中房を間
弁の延長した線で四等分する高句麗
様式を加味している。横井庵寺例は
飛鳥寺様式を継承し、法論寺や大阪
高井田庵寺例となると重弧文字瓦を
伴って、後述の山田寺式の影響を
受けている。天智朝の南滋賀庵寺の
特異な方形鎔瓦は横から見た蓮の花

横浜支店時代の思い出

曾根好雄

鈴木商店横浜支店生糸部

でした。

鈴木商店が米騒動に遭って、バラ
ックで仮住居の本店に入店させて貰
って、何月かの見習期間を経て横浜
支店の生糸部に転勤を命ぜられまし
た。所謂「ぼんさん」でしたが、生
糸部は輸出が目的でしたので、毎日
が英文の生活でした。確か其の当時
タイプライターで打った年号は一九
一九年だったと記憶しています。
私が横浜で関東大震災に会って、
第一船の避難者として山城丸で神戸
の本店に帰って参りました。其の時
の本店は三宮にあって三階建の洋館

を厚肉素弁であらわし、その他広く
高い周縁に重圍文、輻線文をかざる
のも時代のすう勢である。船橋庵寺
や慈光寺の鬼面文鎔瓦も高句麗的要
素というべきであろうか。
飛鳥時代末期から白鳳時代初頭に
かけての飛鳥様式の残影には蓮花文
の厚肉化、周縁の広高化傾向のなか
に、百済様式と高句麗様式の融合も
おこなわれている。

関東大震災の体験者であり、横浜
支店の状況を知っている生きた報告
者が到着したとて、山城丸の埠頭
着と共に道路の両側に沢山の出迎え
の人で埋まっている中を差廻しの車
で本店に到着、お家様の前に呼出し
を受け詳細を報告申し上げ、御慰勞
の言葉を頂き、当時の受付主任、松本
三平様の宅に一夜を宿泊させて頂く
事になり、尚店より新調の着物に帯
迄添えての心尽しの有難さは今も尚
忘れ去る事は出来ない心温る思い出

老残者にはなりたくない

藤内金次

私の住んでいる聯合町会で、寿老
会というのがある。正会員は六十五
才以上であるが、満六十才になると
準会員として入会できる。老人会の
特典は専ら慰安会や、慰安旅行が最
も安くて何処へ行くにも普通の三分
の一位の費用で充分楽しめるという
ことだ。

先般別府行があったが、日程一週
間別府滞在五日間で費用が汽車賃も
含めて一切金壹万貳千円也である。
現地の遊覧バスも破格の安値ですこ
ぶる歓迎してくれた由。

私も是非入会しろと云われている
が、神鋼の浅田長平さんのように、
八十才になってから入会することに
決めている。地域の学校や手近の集
会場等では私から慰問をかって出て
漫談や落語で老人達を喜ばせてい
る。

六月の初め花屋敷のマンション
(有料老人ホーム)へ友人が入居し
たので、設備を見るためもあったが
三十人の老人慰問を思いたって落語
で笑福亭松鶴、桂春団治、浪曲師吉

であります。

次に懐かしいのは当時生糸部は三井
物産や其他数ある輸出の大手を向う
に廻しての商戦で、毎日生糸の俵が
アンペラに包まれて幾俵も幾俵も馬
力に積られて横浜の埠頭に荷出しさ
れ、領事館の証明、東京海上、三菱、
大正海上等の保険書類を添えたるB
/Lを正金、台湾銀行に持って行く
役と、暗号電報を差出しに横浜郵便
局へ行ったりする使歩きの仕事でも
結構今の言葉で格好良いと感じる時
代でした。それも支店前で道路を挟
んで専属の車屋(人力車)があっ
て、玄関に出て手を挙げると早速車
を置いて飛んで来てくれる。中には
年寄もあるが、若い元気な人が横浜
の本町通りを駆けてくれる時の優越
感は今も格別で当時の月給六円も別に
苦にならない気持ちでした。

或る時余り人力車ばかり乗るので
時の支店長北村和三郎様の鼻眼鏡越
の上目で叱られて爾後雨降か、支店
長の留守を見計って、玄関に立って
人力車を呼んだ記憶がある。然し代
用の自転車でも三段変速で当時とし
てはハイカラなものであった。寄宿
舎が山手にあつて、外人宿舍式のも
ので三階へは細長い階段を昇ると一
部屋があつた。其の部屋で起臥され

ころもある。社会的にもまだまだあ
りあまっているエネルギーを無駄に
することはどういふものだろうか。

「精神老化テスト」によると、精神
の老化現象には、知的老化、情緒老
化、社会的老化の三ツがあるそうで
簡単にいえば知的老化とは、年をと
って頭の働きがぶくなること、情
緒的老化とは感情が不安定で、自己
中心的になること、社会的老化とは
社会の動きにソッポを向くこととい
うわけである。

こうした老化現象は老人エネルギ
ーの活用の際に充分考慮にいれる必
要があるだろう。辰巳会の皆さんは
老人会入会の資格者が殆んどである
が、「ご老人とは、まだ早い」人達
のお揃いである。寿命が延びた今
日、老人エネルギーの最上のご活用
を、お願いする。

「若返りに××錠」といった医学
だけではなく、もっと総合的な老人
医学を研究して「老残者」にならぬ
よう心がけましょう。

☆

☆

☆

西 歳 の 歴 史

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--|
| 明治6年 | 地租改正、地価百分の三を標準とて金納、 征韓論破れ西郷隆盛辞職す。 | 大正10年 | 會議原敬 トシロ内閣総理大臣に代る。 |
| 明治18年 | 伊藤博文内閣成立 日本赤十字社病院創立 | 昭和8年 | 熱河征伐 國際連盟脱退 神兵隊事件起る。 |
| 明治30年 | 八幡製鉄所設置 金本位制施行 京都帝国大学創立 | 昭和20年 | 終戦の大詔渙発 戦犯容疑者に逮捕令 近衛文麿公自殺 |
| 明治42年 | 新聞紙法公布 近江美濃大地震 伊藤博文ハルビンにて韓国人に暗殺さる。 | 昭和32年 | 九州西部に豪雨大被害 子姪に原子の火初点火 茨城県東海村原 日ソ通商条約調 |

た人々は現在辰の会員名簿の中で其
の氏名を発見することは出来ない。
宿舎から店迄約二軒余市電か徒歩で
の通勤でした。其の途中に横浜のグ
ランドがあつてアメリカから職業野
球の選手が来てポンポンと球を場外
に叩き出していた事を記憶していま
す。ペーブルスでした。

私の大要薄らいた記憶ですが当時
の横浜支店の皆様を個別に列記し
て見たいと思います。

(敬称省略させて頂きます)

支店長 北村和三郎
支店長代理・生糸部主任 林 大作
生糸部 検査員 三浦宗治
生糸部 植木寿、角田博義(旧姓久保)
長谷愛治、後藤 董、曾根好雄
伴 惣吉(昭和十年以前神戸の自宅で死去)
小川 恕(昭和十年迄に死去)
タイピスト 左右田なか
(足の少し悪い人でした)
支店長代理・会計主任 建部清四郎
書記 島本 (字の上手な可成)
部員 山本浜一、美土路
羽二重部主任 東川義房
部員 中川喜代治、叶野建治、村元
増衛、竹崎鶴太郎、岩瀬聖一
姓出口
船舶部主任 川添久吉
部員 中村元義(伯名元義) 田中秀夫(私
と同期生)
(其他何部だったか)
主任 中島健吉、丹野甚之助